

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 4175  
21年8月18日(水)  
Tel・Fax 095-828-1953

# 大雨での業務運行を振り返る

おはようございます。  
先週の水曜日(11日)からの大雨は、九州だけではなく広島や長野などにも被害をもたらしました。

この度の豪雨で被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。  
「未来」は配布予定の昨日が大雨の予報だったため、安全面などを考慮し今日(18日・水曜日)配布します。

さて、1週間降り続いた雨は、集配営業部で滞留や業務停止など大きな影響を及ぼしました。幸い事故や大きな混乱はなかったですが、先週からの業務運行を振り返ってみます。

8月11日(水) 天候は雨。郵便物数は47%。計配等の指示はなく通常通り。約半数の社員は1

時間程度の超勤。夕方・夜間配達は、雨が小降りだったので通常通りの業務運行。

8月12日(木) 天候は豪雨。郵便物数50%程度。計配等の指示はなく通常通り。超勤の社員も多数いた。通区者など一部滞留あり。

夕方、夜間配達はバイクでは危険との事で、2名1組になり4輪車で配達。指定がないゆうパックなどは翌日にまわすなどし、安全最優先での業務運行。



8月13日(金) 天候は豪雨。郵便物数は50%程度。

長崎市南部地区の複数の旧特定局には、災害危険地域に該当するのとこのとで会社から業務停止の指示が出る。

集配部では、計画配達指示はなく通常通り。午後からの業務指示は3集では追跡系(書留、ゆう

パケット等)だけ配達し帰局指示(通常郵便は滞留)。1・2集では16時頃、通常郵便物の配達打ち切りでの帰局指示がでる。

各部通配区の担当者は帰局したが、その後ゆうパック応援で配達に出る社員が多数いた。夕方・夜間配達は通常通り(前日は2名1組の4輪車で配達したが、この日は指示なし)。事故や滞留などの報告はなし。

8月14日(土) 天候は大雨。午前2時15分に長崎県に大雨特別警報が発表される。出勤者には「今日の勤務者は一旦自宅待機で、11時30分に会社からの連絡で出勤するか業務停止になるのかが決定される」との連絡が入る。午前11時30分に本日(14日)の業務停止が正式決定。

8月15日(日) 天候は曇り。全日までの滞留分を含めゆうパック・レターパックは通常の1.5倍以上。現金書留・ゆうパック・ゆうパケットを優先して配達。大村局からゆうパック等がほとんど届かなかったため、この日の業務は混乱なく終了。



8月16日(月) 天候は雨。長崎市の大津警戒レベルは4(避難指示)で土砂災害警戒情報も発表される。1、3集は増配置なし。2集は一部増配置あり。

金曜日の滞留分を含めて、切手貼付・日付印・新聞を優先して配達、その他は計配指示。書留、ゆうパック、ゆうパケットは通常通り配達。

異例の大雨となった1週間。全体的には、自宅待機や業務停止指示などが出され、社員の命を最優先に考えた業務運行となっていた。一方、各集配部で業務指示が統一されていない日もあった。特に13日は、午後からの業務指示が統一されていなかった。また途中で帰局指示は出されたが、安全確保のため、ゆうパ

ックなどの混合区の応援要員確保の確かはつきりしなかった。

この他、16日は切手貼付など優先配達分以外の郵便は計配指示が出されたが、2集では多くの区で守られず配達が強行された。この為、指示に従った社員の区だけが滞留の形となり軋轢が生まれた。

今回の大雨に限らず、台風や大雪なども災害に巻き込まれるのは一瞬だ。現場の指示では間に合わないこともある。

大雨特別警報が発令された14日は、自宅待機指示の連絡が間に合わず出勤した社員もいた。あらかじめ大雨特別警報が発令中は自宅待機と定めるべきだ。また計配指示が徹底されないことが多い。各部署統一の指示及び点検を徹底する必要があり。社員は多少無理しても配達しようとする。それが事故や軋轢を生む管理者には、社員に委ねるのではなく、私の指示のもと業務が行われている、という責任を持ってほしい。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげんし差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ!